



CITY WATCHING

クローズアップ CLOSE UP

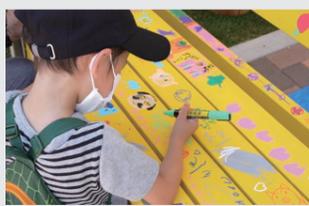
七夕まつりを次世代へ

七夕まつりを、7月31日までWEBとリアルで開催しました。特設ホームページで市民の想いや、過去の七夕まつりの様子などを紹介。7月9日には、鐘への祈りと7への願いと題し太陽の鐘へのプロジェクションマッピングの投影や子どもたちによる花火を展望橋で開催しました。



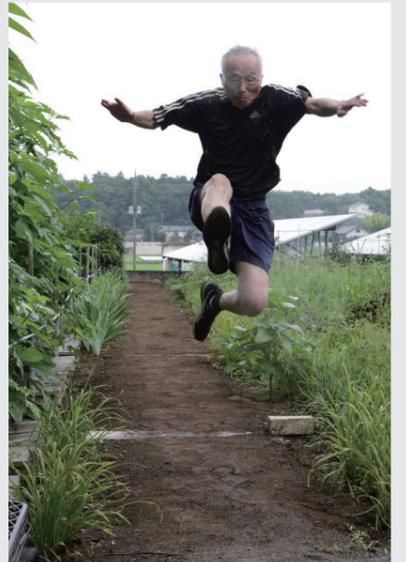
生涯活躍のまち始まる

7月2日にコロンシティフェスタをコロンシティまえばしで開催。世代間交流イベントや幸せのベンチプロジェクト、マイバッグ作成などの各種イベントを実施しました。コロンシティまえばしは交流から繋がりを創造する、地域の魅力の新たな発信拠点となっています。



薔薇の詩人大手拓次展

前橋文学館で、「薔薇の詩人」と呼ばれ、萩原朔太郎の詩にも影響を与えた大手拓次の企画展を9月19日(月)まで開催しています。詩の朗読動画やAR、視覚・聴覚・嗅覚で楽しめる方法で展示。期間中は学芸員による展示作品の解説や関連イベントも開催します。



更なる記録を目指して

7月3日に開催された陸上の第36回富岡マスターズ記録会で、男子走り幅跳びM85(85〜89歳)のクラスに出場。世界記録の3.477を3秒上回る3.480を跳び、記録を更新した齋藤さん。

「走り幅跳びを始めたきっかけは、私が生まれた年に開催されたベルリンオリンピックの記録映画。そこで目にしたアメリカのオーエンス選手の美しい跳躍の姿に魅了されて競技を始めました」

大学卒業後は競技から離れたものの、定年後に故郷である本県に戻り、友人の勧めで競技を再開。

「初めの15年は膝が痛くて走ることもできませんでしたが、体重を減らしたことで、膝の痛

みがとれられるようになったため、少しずつトレーニングを始めました。最近3日に1回、自宅や近所の市有施設で1時間程度のトレーニングをしています。自宅の前に広がる畑の片隅には、齋藤さんが自作した跳躍練習場がある。

「大会では24歳を助走し、踏切板の5歩手前付近でトップスピードに達します。一番大切なのは、スピードですね」

現在は、8月に開催される関東大会へ向けてトレーニングに励んでいる。

「競技を再開して跳んでみて、やっぱり跳ぶことが好きなのだと思えました。90歳まで続けられたらうれしいです」と笑顔で語っていた。



園農政課
☎ 027-898-5841



地産地消センターの石原多香子さん。利用者の加工品作りを支援します。

旬な農産物や生産者を紹介するこのコーナー。今回は農産物をおいしく加工することが出来る市内の加工施設を紹介いたします。

本市には、富田町の地産地消センターと粕川町月田の粕川農産物加工施設、富士見町引田の富士見農産物加工施設の3つの施設があります。各施設では、大きな釜や蒸し器、オーブンなどを設置。自宅ではなかなかできない大量の加工品を作ることが出来ます。

利用目的で一番多いのは、みその加工。数人で利用し、できたみそを分け合っています。そのほか、豆腐やうどん、パンを作る人も。燻製室のある施設ではハムやウインナーなども作られています。「自分たちだけで作れるのかな」



と不安に思う人もいるかもしれませんが、大丈夫。各施設には加工品の作り方を教えてくれる職員がいます。こんなものを作ってみたいと思ったら、ぜひ相談してください。

各施設について詳しくは、本市ホームページをご覧ください。

